

審議した主な議案

平成15年度小金井市一般会計予算 (第1回臨時会の審議も含む)

平成15年度一般会計予算は、予算特別委員会、質疑が行われ、質疑終了後、12人の委員から市長の提案した予算案に対して、武蔵小金井駅南口地区第一種市街地再開発事業に要する経費及び本格稼働に係る住民基本台帳ネットワークに要する経費等を削除し、中学校図書室に司書を配置する経費等を増額する内容の修正案が提出され可決されました。

この修正案は、25日の本会議で賛成多数(賛成12人・反対11人)で可決し、市長の提案した予算案は修正可決となりました。

算執行者として政策意思に反するとし、第1回臨時会において、再議注1)に付しました。

このため、再度議決を行い、修正可決された予算は3分の2(16人)以上の同意が得られず、修正可決のとおり決定することは否決されました。

その結果、市長の提案した予算案(原案)について採決が行われ、賛成少数(賛成11人・反対12人)のため否決となりました。

この結果を受け、市長は4月から5月までの2か月間の行政運営に最小限度必要とされる経費を計上した暫定予算(注2)を提案し、全会一致で可決しました。

反対討論(要旨)

青木ひかる(市民の党)

第一に、武蔵小金井駅南口再開発事業の予算が計上されている。成立性に根拠がなく超高層ビルを基本とした再開発事業のスタートは認められない。第二に、情報を保護する法制もシステムも確立しない中、住基ネット本格稼働の予算が計上されている。第三に、東小金井駅北口地域でまちのあり方についての論議が行われているさなかに、土地区画整理事業化予算を計上することは不誠実であり許容できない。よって反対する。

修正案に対する反対討論(要旨)

西岡真一郎(改革連合)

修正案は武蔵小金井駅南口再開発に関する予算が削除され、賛同者が84%にも達した地権者らが積み上げてきた流れや市民要望も取り入れながら作成してきた方針を壊すものであり、賛成できない。財産に重大な影響が及ぶ地権者等への相談もない状態で議会の過半数で修正することは問題。提案各会派の考え方もかけ離れており、都市計画決定後になって後から別の方法を考えるというやり方には到底賛同できない。

修正案に対する賛成討論(要旨)

森戸洋子(日本共産党)

第一に、住基ネットの切断と離脱が含まれていること。第二に、武蔵小金井駅南口再開発事業、東小金井駅北口土地区画整理事業など大型開発を削って、市民の生活を優先させる予算の第一歩であることと、画期的である。

修正案を除く原案は、保育園の民間委託などに道を開く審議会の設置の予算など問題もあるが、再開発の強行に歯止めをかけ、税金の使い方を考える出発点にもなると考え賛成する。

修正案に対する反対討論(要旨)

小尾武人(公明党)

修正案は武蔵小金井駅南口第1地区再開発事業の予算をすべて削除している。これは地権者、商店会を始め多くの市民の街づくりへの期待と願望を根こそぎ打ち砕くものである。地権者3団体の嘆願書(再開発の努力が無意味となれば)その責任は誰がとっていたのか。悲痛と言えこの訴えはより多くの市民の叫びでもある。バスが乗り入れる駅前広場の実現、公会堂建て替えの市民交流センター完成こそ市民要望だ。

修正案に対する賛成討論(要旨)

藤村 忍(生活者ネット)

主に次に挙げる理由により、修正案に賛成する。住民基本台帳ネットワークシステムは、個人情報保護対策が十分でないまま安易に接続することに反対する。現在の武蔵小金井駅南口再開発事業は、財政・都市計画両面ですさんな計画である。

市の財政規模にあつた計画の見直しが必要である。東小金井駅北口土地区画整理事業は、権利者の賛成・反対者を含めた協議の場で都市計画の見直しを含め検討すべきである。

修正案に対する反対討論(要旨)

露口哲治(自民党小金井)

武蔵小金井駅南口再開発は、住民の悲願であり、住み良い地域の発展と防災に強いまちづくりに向けての重大案件である。中央線高架化が進む中、これに合わせた南口再開発の推進的役割を担う予算は必要である。公団の情報開示に問題があるが、今後、市との連携を密にして再開発に取り組みでもらいたい。この機を逃したら、南口のまちづくりが大幅に後退するのは火を見るより明らかである。よって本修正案に反対する。

小金井市環境基本条例

環境の保全、回復及び創造について基本理念を定め、小金井市、市民、事業者及び教育機関の責務を明らかにするとともに、環境の保全等に関する施策の基本的な事項を定めることにより、環境の保全等に関する施策を協働して総合的に推進することを旨とする。

修正案に対する反対討論(要旨)

若竹綾子(湧湧環境)

1. 地下水脈を傷つける危険性のある25階建ビルには反対だが、世代交代等の切実な事情を抱えた地権者が84%以上の賛成を表明した。地権者の方々には今後、環境や市民参加の駅舎作りにも積極的に関心をもってほしいと発言する。

2. 住基ネットの安全性は確保されていない。予算削除には大賛成。市長は漫然と接続し続けず、市民の意向を調査の上、住基ネット離脱や選択制導入に取り組みべきだ。

再議に対する反対討論(要旨)

井上忠男(日本共産党)

修正予算案の賛成討論で日本共産党は「市長は、議会の議決を受け入れるべきであり、拒否権を発動し再議に付すべきではない」と指摘した。しかし、市長は拒否権を行使、その結果、修正案も市長案も否決され、暫定予算になる。過去に議員提案で可決した条例を拒否し再議にかけて、辞職した市長もいる。暫定予算にしない道は、与党が修正案に賛成すればいい。暫定予算は、修正案を拒否した稲葉市長の責任である。

修正案に対する賛成討論(要旨)

漢人明子(市民自治)

市民参加の策定委員会を経た市長の提案は、緑・水・環境学習、市・市民・事業者の協働、実効性の確保を特徴とし評価できるが、本修正によりさらに進んだ内容となる。特に「未然防止の原則」は、因果関係が科学的に証明されなくても予防的措置をとることとあり、全国に先んずる画期的な条例となる。また、進行中の開発事業への効力を高め、全ての施策との整合を図ることも強化している。基本計画策定にも期待する。

小金井市介護福祉条例の一部を改正する条例

第2期介護保険事業計画策定に伴い、平成15年度から平成17年までの保険料の改正、介護サービス苦情調整委員を廃止し、福祉サービス苦情調整委員に変更することを内容とするものである。

反対討論(要旨)

野見山修吉(市民の党)

保険料の値上げそのものは適切であれば必要だと考える。しかし、今回の保険料の値上げは低所得者に対する減免がまったく不十分である。低所得者ほど要介護認定率が高く、減免制度の周知も不十分では保険料の年金からの天引きは苦しい支出であり、救済範囲の拡大が必要である。値上げにより、さらに生活が苦しくなる人などへの新たな減免又は助成制度を明確にして提案すべきである。よって反対する。

修正案に対する賛成討論(要旨)

関根優司(日本共産党)

介護保険は市民が介護サービスを利用すればするほど保険料が上がっていく仕組みであり、ここにも制度の根本的欠陥がある。今、介護保険以外でも医療費の負担増や都の老人福祉手当の切捨て、シルバークラスの有料化など、年金暮らしの高齢者の相次ぐ経済的負担増には目に余るものがある。「基金を活用すれば保険料据え置きは可能」と市も答弁しており、介護保険料は据え置きへきと表明し賛成討論とする。



仮線工事で生まれ変わる武蔵小金井駅